令和元年度 財政状況資料集

総括表 (市町村)

	122 \1111					** 中田 / 华	指定団体等の指定状況		区分	令和元年度(千円)	平成30年度(千円)	区	分	令和元年度(千円·%)	平成30年度(千円・%)		
	都道府県名	神养	奈川県	市町	村類型	政令指	定都市	相足凹体寺	の指定认流	歳入総額		739, 133, 605	715, 393, 440	実質収支比率		0.1	0. 2
								財政健全化等	×	歳出総額		735, 658, 102	712, 401, 058	経常収支比率		100. 3	99. 8
								財源超過	0	歳入歳出	差引	3, 475, 503	2, 992, 382	(※1)		(100.3)	(99.8)
	市町村名	Щ	崎市	地方交	付税種地	1:	-9	首都	0	翌年度に	繰越すべき財源	3, 029, 353	2, 363, 318	標準財政規模		374, 180, 277	368, 483, 160
								近畿	×	実質収支		446, 150	629, 064	財政力指数		1.02	1. 01
		平成27年国調(人) 1,475,213					中部			支	-182, 914		公債費負担比率		14. 6	15. 3
	人口	平成22年国調(人) 1,425,512	1	産	業構造 (※5)		過疎	×	積立金		181, 639	387, 002	健全化判断比率			
		増減率 (%)	3. 5					山振	×	繰上償還	金	0	0	実質赤字比率		-	-
		令02.01.01(人		[2	区分				×	積立金取		15, 000	28, 000	連結実質赤字比率		-	-
		うち日本人(筆	11次	2, 620	2, 444	指数表選定	0	実質単年	度収支	-16, 275	271, 425	実質公債費比率		7. 5	7.3
住日	民基本台帳人口	平31.01.01(人				0.4	0. 4							将来負担比率		123. 7	120. 4
	(※7)	うち日本人(第	52次	133, 765	126, 687			基準財政		297, 074, 880		資金不足比率(※4)			
		増減率 (%)	0.9			21.3	21. 2			基準財政		289, 207, 442	287, 431, 560				
		うち日本人(第	53次	491, 816	469, 846			標準税収		374, 180, 277	368, 483, 160				
	面積 (km²)		143. 01			78. 3	78. 4			-	充当一般財源等	381, 000, 167	375, 457, 221				
	1密度 (人/k㎡)		10, 315	1						歳入一般	財源等	470, 008, 576	454, 551, 319				
- #	世帯数 (世帯)	691.837															
	ı			職員	●の状況 			1									
	区分	定数	1人あたり平均 給料月額(百円)	l _		区分	職員数 (人)	給料月額 (百円)	1人あたり平均 給料月額(百円)	u (+ *P	<u></u>	000 045 000	044 070 000				
				般	An mea E					地方債現		802, 245, 806	814, 670, 809				
	市区町村長	1	12,000	職員	一般職員		9, 401	30, 243, 017	3, 217	うち公		68, 347, 855	75, 231, 803				
特 別	副市区町村長	3	9, 500	· 等		消防職員	1, 441	4, 373, 435	3, 035	-	行為額(支出予定額)	284, 925, 957	180, 123, 616				
職	教育長	1	7, 800	· · · ·		支能労務職員	1, 294	4, 208, 088	3, 252	収益事業		3, 213, 772	3, 045, 950				
等	議会議長	1	10, 300	6	教育公科		6, 238	21, 182, 096	3, 396	土地開発	基金現在高	679, 686	690, 127	ļ			
	議会副議長議会議員	58	9, 200 8, 300	_ ~	臨時職員 合計	Ę	303 15, 942	878, 094 52, 303, 207	2, 898 3, 281	積立金	財政調整基金減債基金	6, 384, 082 1, 124, 457	6, 121, 419 839, 196				
	裁云哉貝	56	8, 300	<u> </u>	百町 ラスパイし	. フ tヒ※h	15, 942	52, 303, 207	101.0	現在高	減順基立 その他特定目的基金	23, 206, 267	22, 314, 619				
<u> </u>					77/11	レヘ田奴			101.0		ての他特定日的基金	23, 200, 207	22, 314, 019	ļ			
一般 項番	会計等の一覧	会計名	事業 項番	会計の-	一覧	会計名		公営企業(法適 項番)の一覧 会計名		公営企業(法非適)の一 項番 会	-覧 #計名	関係する一部事務 項番	組合等一覧 組合等名	地方公社・第 項番	ミニセクター等一覧 団体名	(%3)
(1)	一般会計		(8)	競輪事業	类特別会計			(12) 病院事業会計	+		(17) 卸売市場事業特別会計		(20) 神奈川県川崎競	馬組合	(24) かわさき	市民放送	
(2)	母子父子寡婦福祉資金	全貸付事業特別会計	(9)	国民健康	使保険事業特	寺別会計		(13) 下水道事業会	RH	(18) 港湾整備事業特別会計			(21) 神奈川県内広域	水道企業団	(25) 川崎市土	地開発公社	
(3)	公害健康被害補償事業	美特別会計	(10)	後期高齢	令者医療事業	美特別会計		(14) 水道事業会計	+		(19) 生田緑地ゴルフ場事業	(22) 神奈川県後期高 (一般会計)	齢者医療広域連合	(26) 川崎市文	化財団		
(4)	勤労者福祉共済事業特	寺別会計	(11)	介護保険	食事業特別会	計		(15) 工業用水道事	業会計					齢者医療広域連合 療特別会計)	(27) 川崎市国	際交流協会	
(5)	墓地整備事業特別会計	+						(16) 自動車運送事	業会計						(28) 川崎市ス	ポーツ協会	
(6)	公共用地先行取得等事	事業特別会計													(29) 川崎アゼ	リア	
(7)	公債管理特別会計														(30) 川崎冷蔵		
											(31) 川崎市産	業振興財団					
												(32) 川崎・横浜公害保健センター					
										(33) 川崎市シルバー人材センター							

⁽注釈) ※1:経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。 ※2:各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。 ※3:地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に〇印を付与している。 ※4:資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。 ※5:産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。 ※6:個人情報保護の親点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(一)としている)。 ※7:人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。

神奈川県川崎市

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の)状況(単位 千円	• %)			地方税の状況(単位 千円・%)						
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分			
地方税	361, 896, 242	49. 0	335, 608, 477		普通税	326, 489, 042	90. 2	1, 554, 376			
地方譲与税	3, 050, 143	0.4	3, 050, 143	0.8	法定普通税	326, 489, 042	90. 2	1, 554, 376			
利子割交付金	180, 486	0.0	180, 486	0.0	市町村民税	191, 111, 288	52. 8	1, 554, 376			
配当割交付金	1, 666, 393	0. 2	1, 666, 393	0.4	個人均等割	2, 897, 069	0.8	-			
株式等譲渡所得割交付金	1, 004, 063	0. 1	1, 004, 063	0.3	所得割	169, 855, 042	46. 9	-			
分離課税所得割交付金	423, 611	0. 1	423, 611	0.1	法人均等割	4, 248, 695	1. 2	-			
地方消費税交付金	24, 627, 586	3. 3	24, 627, 586	6. 5	法人税割	14, 110, 482	3. 9	1, 554, 376			
ゴルフ場利用税交付金	33, 280	0.0	33, 280	0.0	固定資産税	125, 651, 726	34. 7	-			
特別地方消費税交付金	-	-	-	_	うち純固定資産税	125, 324, 226	34. 6	-			
自動車取得税交付金	876, 929	0.1	876, 929	0. 2	軽自動車税	852, 526	0. 2	-			
軽油引取税交付金	4, 071, 963	0.6	4, 071, 963	1.1	市町村たばこ税	8, 873, 502	2. 5	-			
自動車税環境性能割交付金	332, 978	0.0	332, 978	0.1	鉱産税	_	-	-			
地方特例交付金等	3, 961, 929	0.5	3, 961, 929	1.0	特別土地保有税	_	-	-			
個人住民税減収補塡特例交付金	1, 855, 383	0.3	1, 855, 383	0.5	法定外普通税	-	_	-			
自動車税減収補塡特例交付金	173, 057	0.0	173, 057	0.0	目的税	35, 407, 200	9.8	-			
軽自動車税減収補塡特例交付金	7, 932	0.0	7, 932	0.0	法定目的税	35, 407, 200	9.8	_			
子ども・子育て支援臨時交付金	1, 925, 557	0. 3	1, 925, 557	0.5	入湯税	7, 306	0.0	-			
地方交付税	1, 426, 799	0. 2	-	_	事業所税	9, 112, 129	2. 5	-			
普通交付税		_	_	_	都市計画税	26, 287, 765	7.3	_			
特別交付税	1, 425, 679	0. 2	_	_	水利地益税等		-	_			
震災復興特別交付税	1, 120	0.0	_	_	法定外目的税	_	_	_			
(一般財源計)	403, 552, 402	54. 6	375, 837, 838	98. 9	旧法による税	_	_				
交通安全対策特別交付金	302, 655	0.0	302, 655	0. 1	合計	361, 896, 242	100. 0	1, 554, 376			
分担金・負担金	14, 417, 491	2. 0	Δ	0.0		001, 000, 212	100.0	1, 001, 070			
使用料	12, 427, 922	1.7	2, 962, 032	0.8							
手数料	3, 445, 367	0.5	2, 302, 002	0.0	区分	令和元年度		平成30年度			
国庫支出金	133, 230, 146	18. 0	_	_		99.5		99.6 99.2			
国序文山亚 国有提供交付金(特別区財調交付金)	100, 200, 140	10.0	_	_	徴収率 現 古町廿巳珆	99.3		99.4 98.9			
都道府県支出金	30, 315, 531	4. 1	_	_	(%) 年	99.7		99.8 99.6			
財産収入	3, 524, 937	0.5	723, 772	0. 2		33.1	33.0	33.0 33.0			
寄附金	557, 058	0. 3	723, 772	0. 2	公営事業等への繰出	国民/神	東保険事業会計	- 小井 in			
^{新州亚} 繰入金	55, 762, 572	7. 5		_	合計 64,478,237	実質収支	以下灰于未云 百	359, 971			
繰越金	2, 896, 358	0.4		_	下水道			-3, 416, 073			
諸収入	31, 159, 966	4. 2	49. 080	0.0				179, 119			
		4. Z 6. 4	49, 080	0.0			'				
地方債	47, 541, 200	0.4	-	_		被保険者数(人)	* 주	259, 088			
うち減収補塡債(特例分)	-	_	-	_	上水道 617, 347		・税(料)収入額	118			
うち臨時財政対策債	700 100 005	100.0	270 075 201	100 0	国民健康保険 11,468,642		支出金	201			
歳入合計	739, 133, 605	100.0	379, 875, 381	100.0	その他 26,619,297	「一 / し保険	給付費	301			

(注釈)

普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

		歳出の)状況 (単	色位 千円・%)			
				(単位 千円・%)			
	区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通	設事業費	(A)のうち充	当一般財源等
議会	費	1, 751, 856	0. 2		-		1, 751, 824
総務		85, 542, 896	11.6	:	2, 225, 824		77, 479, 265
民生	費	266, 671, 848	36. 2		6, 678, 001		131, 810, 356
衛生	費	60, 928, 194	8. 3	!	5, 195, 075		46, 337, 938
労働	費	527, 139	0.1		1, 270		306, 983
農林	水産業費	544, 396	0.1		69, 835		457, 741
商工	費	26, 274, 321	3.6		1, 630, 458		3, 626, 354
土木	:費	84, 870, 581	11.5	4	7, 530, 492		38, 971, 961
消防	ī費	17, 627, 658	2. 4		1, 960, 091		15, 547, 447
教育	i 費	117, 651, 872	16.0	2:	2, 438, 775		80, 580, 748
災害	『復旧費	383, 204	0.1		-		23, 267
公債	ī費	71, 627, 936	9. 7		-		68, 891, 655
諸支	出金	1, 256, 201	0. 2		-		1, 256, 201
前年	度繰上充用金	-	-		-		-
歳出	l合計	735, 658, 102	100.0	8	7, 729, 821		467, 041, 740
		性質別歳		(単位 千円・%)			
AL 75	区分	決算額	構成比	充当一般財源等		当一般財源等	経常収支比率
	的経費計	415, 760, 474	56. 5	269, 201, 150		65, 972, 234	70.0
^	、件費	147, 338, 877	20.0	125, 725, 636	1	24, 232, 759	32. 7
	うち職員給	108, 653, 349	14. 8	88, 076, 643		74 000 007	10.7
	助費	197, 148, 729	26. 8	74, 938, 927		74, 938, 927	19. 7
7	:債費	71, 272, 868	9.7	68, 536, 587		66, 800, 548	17. 6
۱	元利償還金	71, 270, 704	9. 7 8. 2	68, 534, 423 57, 761, 887		66, 798, 384 56, 174, 605	17. 6 14. 8
内	うち元金	59, 966, 203	1.5				
訳	うち利子	11, 304, 501		10, 772, 536		10, 623, 779	2. 8 0. 0
ZO	一時借入金利子 他の経費	2, 164 231, 784, 603	0. 0 31. 5	2, 164 183, 211, 383	1	2, 164 15, 027, 933	30.3
	7他の程复]件費	73, 676, 755	10.0	60, 795, 590		54, 978, 704	14. 5
	持補修費	6, 136, 836	0.8	4, 136, 965		4, 136, 965	14. 5
	日付補修复 計助費等	82, 769, 975	11.3	77, 625, 036		27, 618, 201	7. 3
1111	助員守 うち一部事務組合負担金	72, 517	0.0	77, 023, 030		72, 517	0.0
4.5	プラーの争伤和ロ貝担立 出金	37, 912, 192	5. 2	32, 516, 449		28, 230, 136	7.4
	·山亚 立金	3, 384, 928	0. 5	1, 372, 112		20, 230, 130	7.4
	ュュー と資・出資金・貸付金	27, 903, 917	3.8	6, 765, 231		63. 927	0.0
	[兵·山贞亚·貞內亚]年度繰上充用金	27, 303, 317	3.0	0, 700, 201		03, 321	0.0
	的経費計	88, 113, 025	12. 0	14, 629, 207			
N P	うち人件費	3, 478, 724	0.5	3, 370, 610			
\vdash	普通建設事業費	87, 729, 821	11. 9	14, 605, 940			
١. ا	うち補助	39, 576, 386	5. 4	1, 925, 628			
内	うち単独	45, 726, 164	6. 2	12, 599, 394			
訳	災害復旧事業費	383, 204	0. 1	23, 267			
	失業対策事業費	- 555, 204	-				
歳出	合計	735, 658, 102	100.0	467, 041, 740			
7000		700, 000, 102		107, 011, 710			

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率(市町村)

- 般会計等の財政状況(単位: 百万円)

_	Meaning of the Manager of the Color (min but and 1)								
	会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等 からの 繰入金	地方債 現在高	備考	
	一般会計	739,763	736,705	3,058	183	55,744	1,026,260		
2	母子父子寡婦福祉資金貸付事業特別会計	374	277	97	-	47	1,509		
3	公害健康被害補償事業特別会計	211	65	146	146	30	0		
4	勤労者福祉共済事業特別会計	98	98	0	0	19	0		
5	墓地整備事業特別会計	642	469	173	117	0	0		
6	公共用地先行取得等事業特別会計	345	345	0	-	344	497		
7	公債管理特別会計	225,280	225,280	0	-	175,218	0		
8									
9									
10									
11									
12									
12									
14									
15									
16									実質赤:
21	一般会計等(純計)				446				

| 一般会計等(総計) は、各会計の相互間の総入・機出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況	(単位·	百万円)

Ī	宮企業会計等の財政状況(単位:白力) 会計名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額 /不足額 (実質収支)	他会計等 からの 繰入金	企業債 (地方債) 現在高	左のうち 一般会計等 繰入見込額	資金不足 比率	備考
1	競輪事業特別会計	17,273	17,233	40	40	0	0		-	
2	国民健康保険事業特別会計	121,786	121,427	359	-	11,469	0	0	-	
3	後期高齢者医療事業特別会計	16,626	15,899	727	-	2,013	0	0	-	
4	介護保険事業特別会計	94,704	93,621	1,083	1,083	14,014	2,235	0	-	
5	病院事業会計	33,705	33,260	445	1,316	5,642	47,394	29,953	-	法適用企業
6	下水道事業会計	41,636	37,090	4,546	13,320	11,765	302,986	105,439	-	法適用企業
7	水道事業会計	32,044	28,814	3,230	17,966	338	67,253	2,690	-	法適用企業
8	工業用水道事業会計	7,232	6,466	766	8,885	32	8,000	1,400	-	法適用企業
9	自動車運送事業会計	9,231	9,488	▲ 257	16	1,109	2,700	259	-	法適用企業
	卸売市場事業特別会計	1,572	1,532	40	-	194	3,849	2,852	-	法非適用企業
11	港湾整備事業特別会計	9,786	9,411	375	1	0	2,576	0	-	法非適用企業
12	生田緑地ゴルフ場事業特別会計	549	440	109	51	0	457	0	-	法非適用企業
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
26										
27										
28										
29										
30										
31										
32										
33										
34										
35										
2†	公営企業会計等				42,678	\backslash			_	

ß	関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)									
	一部事務組合等名	総収益 (歳入)	総費用 (歳出)	純損益 (形式収支)	資金剰余額 /不足額 (実質収支)	他会計等 からの 繰入金	企業債 (地方債) 現在高	左のうち 一般会計等 負担見込額	備考	
1	神奈川県川崎競馬組合	87,401	84,955	2,446	2,446	0	0	0		
2	神奈川県内広域水道企業団	42,682	39,781	2,901	12,784	3	103,733	0		
3	神奈川県後期高齢者医療広域連合(一般会計)	4,886	3,849	1,037	1,037	0	0	0		
4	神奈川県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)	943,518	933,423	10,095	10,095	0	0	0		
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
13										
13										
14										
15										
11										
10										
11										
11										
21										
Ŀ	一部事務組合等		_							

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

令和元年度 神豪川県川崎市

	地方公社・第三セクター等名	経常損益	純資産又は 正味財産	当該団体 からの 出資金	当該団体 からの 補助金	当該団体 からの 貸付金	当該団体から の債務保証に 係る債務残高	当該団体から の損失補償に 係る債務残高	一般会計等 負担見込額	備考
Г	かわさき市民放送	10	161	77	(H-95) III.	X17 M				
	川崎市土地開発公社	9	1,527	20				10,000		
L	川崎市文化財団	▲ 16		30	355					
L	川崎市国際交流協会	3	322	300	27					
L	川崎市スポーツ協会	▲ 13	170	45	3					
L	川崎アゼリア	▲ 300	5,975	2,143						
	川崎冷蔵	33	2	40						
	川崎市産業振興財団	▲ 22	2,190	100	210	1,000				
	川崎・横浜公害保健センター	▲ 10	169	7	26					
	川崎市シルバー人材センター	12	208	10	52					
	川崎市身体障害者協会	▲ 21	118	10	85					
L	川崎市看護師養成確保事業団	▲ 15	156	123	92					
	川崎市母子寡婦福祉協議会	▲ 1	99	15	1					
L	神奈川県住宅供給公社	2,293	61,965	8		87				
L	川崎市まちづくり公社	196	4,866	481	6	12,368		672	67	
L	川崎市住宅供給公社	176	10,325	10	5					
L	みぞのくち新都市	23	1,423	105						
L	川崎市公園緑地協会	5	553	131	98					
	川崎臨港倉庫埠頭	142		50						
1	かわさきファズ	828	5,599	1,700		3,700				
+	川崎市消防防災指導公社	▲ 2	700	100						
L	川崎市学校給食会	▲ 6		1	79					
L	川崎市生涯学習財団	▲ 10	306	200	140					
L										
L										
L										
-										
-										
ŀ										-
1										
ŀ										
-										
1										
1										
1										
t										
t										
t										
H										
l										
t										
t										
1										
t										
t										
1										
t										
t										
İ										
I										
t										
1										
П										
L										
1										
t										
地	方公社・第三セクター等									

※地方公共団体財政健全化法に基づき将来負担比率の算定対象となっている法人については、O印を付与している。

連携会担の出口	柳本各种

公債費負担の状況					将来負担の	状況										
実質公債費比率 (千円・%)				将来負担比率						単 (千円・%)					
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	分母比			平成29年度 平	₽成30年度	令和元年度	分母比		内訳	平成29年度	平成30年度	令和元年度	分母比
元利償還金	26,573,827	26,386,160	24,925,850	7.5	将来負担額	一般会計等に係る地方債の現在高	1,053,471,380 1,0	,049,364,435 1	1,028,266,176	309.0	PFI	業に係るもの	9,784,272	8,946,366	8,097,572	2.4
減債基金積立不足算定額	831,107	3,070,650	5,895,694	1.8		債務負担行為に基づく支出予定額	29,342,609 2	26,270,459	23,683,299	7.1	いわ	ゆる五省協定等に係るもの	3,779,953	3,389,083	2,991,457	0.9
準 満期一括償還地方債に係る年度割相当額	42,112,349	43,035,428	43,723,573	13.1		公営企業債等繰入見込額	142,357,825 14	41,684,113 1	142,593,480	42.9		土地改良事業に係るもの	-	-	-	-
元 公営企業債の元利償還金に対する繰入金	13,191,625	12,613,104	12,782,688	3.8		組合等負担等見込額	-	-	-	-	債森林	総合研究所等が行う事業に係るもの	33,464	25,098	16,732	0.0
利 組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	-		退職手当負担見込額	105,548,468 10	01,659,870 1	101,460,997	30.5	負 地方	公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-
遺債務負担行為に基づく支出額(公債費に準ずるもの)	1,123,514	1,778,986	1,839,566	0.6		設立法人等の負債額等負担見込額	130,127	93,006	67,169	0.0	担依頼	土地の買い戻しに係るもの	11,048,608	9,512,099	8,473,303	2.5
金 一時借入金の利子	-	-	-	-		うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額	-	-	-	-	竹 社会	福祉法人の施設建設費に係るもの	4,696,312	4,397,813	4,104,235	1.2
合計 (A	83,832,422	86,884,328	89,167,371		1	連結実質赤字額	-	-	-	-	損失	補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-
内訳	平成29年度	平成30年度	令和元年度	分母比	1	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	引き	受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-
PFI事業に係るもの	183,479	831,177	925,738	0.3	1	合計 (E)	1,330,850,409 1,3	319,071,883 1	1,296,071,121		その	也上記に準ずるもの	-	-	-	-
いわゆる五省協定等に係るもの	278,243	278,140	278,034	0.1		充当可能基金	234,155,290 23	38,845,917 2	221,715,791	66.6		下水道事業会計	103,358,088	103,366,129	105,439,109	31.7
債 国営土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの。	9,173	9,003	8,834	0.0	財源等	充当可能特定歳入	250,365,065 24	47,957,554 2	244,739,863	73.5		病院事業会計	33,824,644	31,825,893	29,952,815	9.0
務 地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-		基準財政需要額算入見込額	459,441,654 43	37,760,234 4	417,669,757	125.5	企業債等 繰入見込		1,423,013	2,368,213	2,852,205	0.9
負 社会福祉法人の施設建設費に係るもの	652,619	660,666	626,960	0.2		合計 (F)	943,962,009 92	24,563,705 8	884,125,411		株八元心	水道事業会計	2,212,402	2,516,320	2,690,136	0.8
行 損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-	将来負担比	:率((E)-(F))/((C)-(D))×100	121.7	120.4	123.7			その他の会計	1,539,678	1,607,558	1,659,215	0.5
為 引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-								地方道路公社に係る将来負担額	-	-	-	-
その他上記に準ずるもの	-	-	-	-							公社・	土地開発公社に係る将来負担額	-	-	-	-
利子補給に係るもの	-	-	-	-	6	全化判断比率 令和元年度 早期健全	化基準 財政科	再生基準			三セク等	地方独立行政法人に係る将来負担額	-	-	-	-
特定財源の額 (E	20,340,326	20,090,026	21,043,882		実	夏赤字比率 -	11.25	20.00				その他第三セクター等に係る将来負担額	130,127	93,006	67,169	0.0
標準財政規模 (0	360,255,112	368,483,160	374,180,277		連	店実質赤字比率 -	16.25	30.00				<u>'</u>				
算入公債費等の額 (E	42,381,865	40,911,194	41,413,847		実	览公債費比率 7.5	25.0	35.0								
(C)-(E	317,873,247	327,571,966	332,766,430		将:	来負担比率 123.7	400.0									
実質公債費比率 (単年度)	6.6	7.9	8.0	_	_											
((A)-((B)+(D)))/((C)-(D))×100 (3ヵ年平均	6.9	7.3	7.5		1											

(3)市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人(R2.1.1現在) 1, 468, 622 人(R2.1.1現在) 連結実質赤字比率 143.01 km 実質公債費比率 739, 133, 605 千円 a. 類 夹 鱼 担 比 塞 123.7 -735 658 102 * 丰田 ж 麵 H27 政令市 H28 政令市 H29 政令市 惒 童 収 支 446 150 千円 H30 政会市 R01 政会市 374, 180, 277 千円 802, 245, 806

● 当 該 団 体 値
◆ 類似団体内平均値
▼ 類似団体内の
■ 最大値及び最小値

※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。

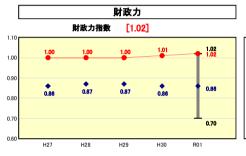
※令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。

※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。

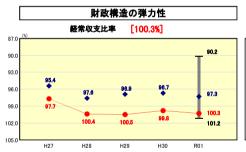
※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内質位 全国平均 神奈川県平均 1/20 0.51 0.92

財政力指数の分析欄

市民の所得水準や土地価格水準の高いことなどから基準財政収入額が大きい一方で、 市域面積が小さいことや高齢化率が比較的低いことなどから基準財政需要額が小さい ため、類似団体平均値上比較して指数が高いものとなっている。



類似団体内模位 全国平均 神奈川県平均 18/20 93.6 99.4

経常収支比率の分析機

细似团体内侧位

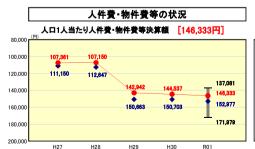
3/20

平成28年度は、保育受け入れ枠の拡大や障害児者介護給付費の増加による経常経費の増及び普通交付税や臨時財政対策債の滅等により大きく上昇した。平成29年度は、県 養負担教職員の市費移管による人件費の増や保育受け入れ枠の拡大等による扶助費の増により上昇した。平成30年度は、保育受入枠の拡大や障害児者介護給付費等の扶助費が増する一方で、個人市民税の増をはじめとした経常一般財源の増加等により低下した。令和元年度は、保育受入枠の拡大や障害児者介護給付費等の扶助費の増によりト盟した。

今後とも、財政の柔軟性を確保できるよう社会保障関連経費の増加ペースの低減に努 める。

全国平均

135,880





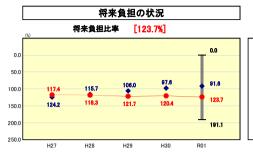
人ロー人当たり人件製は、平成28年度は退職者数の減等の影響により減少した。平成 29年度は、果費負担教職員の市費移管の影響により増加した。平成30年度に引き続き、 令和元年度は教職員数の間による人件費の増により増加した。人ロー人当たり物件費 は、平成27年度は、緊急雇用創出事業費の終了等による委託費の減等により、減となっ た。平成28年度は、B型肝炎ケイルス感染症予防接種の開始やごみ収集業務の委託協 囲の拡大の影響等により増となった。平成29年度は、中学校完全給食実施の影響等に より増となった。平成30年度は中学校完全給食実施の適率化等により増となった。令和 元年度は、プレミアム付き商品券の実施等により増となった。令和 元年度は、プレミアム付き商品券の実施等により増となった。

神奈川県平均

132.911

令和元年度

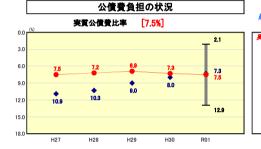
神奈川県川崎市



類似団体内領位 全国平均 神奈川県平均 13/20 27.4 95.7

将来負担比率の分析権

充当可能特定財源見込額や地方債現在高に係る基準財政需要額算入見込額の減等の影響により概ね横ばいてあるが、令和元年度は充当可能基金の減や、地方債現在高に係る基準財政需要額算入見込額の減に対、比率がやや上早した。本市では、平成28年3月に「今後の財政運営の基本的な考え方」を定め、その1つに「将来負担の抑制」として、市債を適切に活用しながらも、若い世代や子どもたちにとって過度な符来負担とならないように、中長期的にブライマリー・バランの安定的な無字の確保に努め、市債残高を適正に管理することを位置付けている。今後も、これらの考え方に基づき、「必要な施策・事業の着実な推進」と「持続可能な行財政基盤の構築」の両立に向けた財政連営を進める。



類似団体内原位 全国平均 12/20 5.8

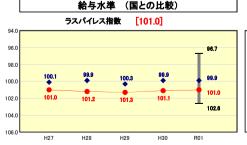
本市の東賓公債費比率は、平成の全度に引き続き、令和示年度は税収増により標準財 放規模が増した一方で、満期一括價還積立金の増等により比率は上昇した。本市では、 平成28年3月に「今後の財政運営の基本的な考え方」を定め、その1つに「将来負担の即 制」として、市債を適切に活用しながらも、若い世代や子どもたちにとって過度な得来負 担とならないように、中長期的にプライマリーバランスの安定的は黒字の確保に努め、市 債残高を適正に管理することを位置付けている。今後も、これらの考え方に基づき、「必 要な施策・事業の着業な推進」と「持続可能な行財政基盤の構築」の両立に同けた財政 運営を進める。



類似団体内領位 全国平均 神奈川県平均 7/20 8.03 8.93

人口1,000人当たり職員数の分析権

平成14年度から平成25年度までの4次にわたる行財改改革ブランの取組により、要託化、指定管理者制度の導入等の行政体制の再整備を行い、スリム化を図ることで、約3,000人の職員数を削減した。また、市役所内部の改革の推進に向け、平成26半3月東定の7川崎市行財改運営に関する改革プログラム/に続き、平成28半3月に、平成28・25年度を計画期間とする7川崎市行財改改第プログラム/に続き、平成28年3月に、平成28・25年度を計画期間とする7川崎市行財改改、第プログラムを実定し、資源物収集、給食期理等の実務の委託や、施設議会等による公立保育所の民営化、指定管理者制度の更なる活用などに取り組んできた。令和元年度については、児童虐待防止に向けた体制の金貨をにより比率が上昇したが、平成30~令和3年度を計画期間とする7川崎市行財改改革第2期プログラム/に基づ収据に加え、廃棄物処理センターの執行体制の見直に等による事務終行の効率化を図るとともにの組織整備・職員配置を行い、限りある人材を最大規模にある。



類似団体内順位 全国市平均 全国町村平均 13/20 98.9 98.4

ラスパイレス指数の分析標

平成28年度は、職員構成の変動等により、平成29年度は、給与制度の総合的見直しの 経過措置期間の影響により、それぞれ指数が上昇した。平成30年度は、国が給料表の 引上げ改定を実施したが、本市は給料表の改定を実施しなかったことにより指数が低下 した。

また、令和元年度は、職員構成の変動等により指数が低下した。

類似団体平均を1.1ポイント上回るものの、令和3年4月から高齢層職員の昇給を原則停止とすることから、指数の改善が見込まれるところ。

今後も引き続き適正な給与水準の確保に努める。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和元年度

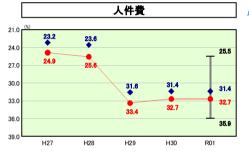
神奈川県川崎市

神奈川県平均

経常収支比率の分析



- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

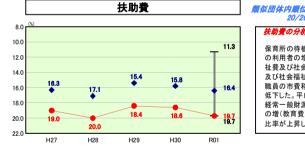


類似团体内順位

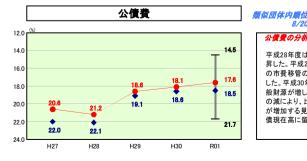
これまでの4次にわたる行財政改革プランに基づく取組により、平成14年度 から平成25年度において約3,000人の職員を削減した。平成28年度は、人 件費は減となっているものの、経常一般財源の減により比率が増加した。 平成29年度は、県費負担教職員の市費移管の影響により比率が上昇した。 平成30年度は、教職員数の増により人件費は増となっているものの、市税 収入の増等による経常一般財源の増により比率が低下した。令和元年度 は、教職員数の増により人件費は増となっているものの、市税収入の増等 による経営一般財源の増により、比率は構ばいとなった。

全国平均

神奈川県平均

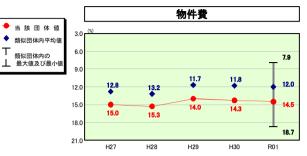


保育所の待機児童対策などの子育て支援施策の強化や障害福祉サービス の利用者の増等により比率は上昇傾向にある。平成25~28年度は児童福 祉費及び社会福祉費の増により上昇したが、平成29年度は、児童福祉費 及び社会福祉費の増により経常充当一財は増となった一方で、県費負担教 職員の市費移管の影響による経常一般財源が増加したことにより、比率が 低下した。平成30年度に引き続き、令和元年度は、市税収入の増等による 経常一般財源が増したものの、幼保無償化による幼稚園県児保育料補助 の増(教育費)や、民生費の児童福祉費及び社会福祉費が増したことにより 比率が上昇した。



平成28年度は、公債費の微増に加え、経常一般財源の減により比率が上 昇した。平成29年度は、経常充当一財は増となったが、、県費負担教職員 の市費移管の影響による経常一般財源が増加したことにより、比率が低下 した。平成30年度は、経常充当一財が減し、市税収入の増等による経常一 般財源が増したことにより比率は低下した。令和元年度は、公債償還元金 の減により、比率が低下した。今後は庁舎建替え事業等により投資的経費 が増加する見込みであるが、市債発行にあたっては、実質公債費比率や市 債現在高に留意しながら、適正な活用に努める。

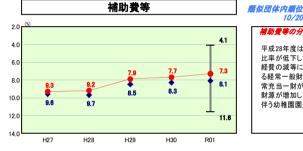
全国平均



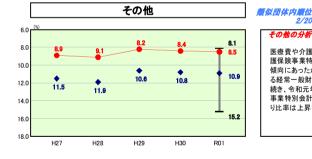
粗似团体内相位 14/20 物件費の分析機

平成28年度は、B型肝炎ウイルス感染症予防接種の開始やごみ収集業務 の委託範囲の拡大の影響等及び経常一般財源の減により比率が上昇した。 平成29年度は、中学校完全給食実施の影響等により経常充当一財は増と なったが、県費負担教職員の市費移管の影響による経常一般財源が増加 したことにより、比率が低下した。平成30年度は、市税収入の増等による経 常一般財源が増した一方で、中学校完全給食実施の通年化したこと等によ り比率が上昇した。令和元年度は、消防ヘリコプター整備事業等の実施に より上昇した。

全国平均



平成28年度は、下水道事業会計における雨水処理負担金等の減等により 比率が低下した。平成29年度は、経常充当一財は防災関係補助金の対象 経費の減等により微減となったが、県費負担教職員の市費移管の影響によ る経常一般財源が増加したことにより、比率が低下した。平成30年度は、経 常充当一財が概ね横ばいである一方で、市税収入の増等による経常一般 財源が増加したことにより比率は低下した。令和元年度は、幼保無償化に 伴う幼稚園園児保育料補助の減等により比率が低下した。



その他の分析欄

医療費や介護サービス費の増により後期高齢者医療事業特別会計及び介 護保険事業特別会計への繰出金が毎年増加していることから比率は上昇 傾向にあったが、平成29年度は、県費負担教職員の市費移管の影響によ る経常一般財源が増加したことにより、比率が低下した。平成30年度に引き 続き、令和元年度は医療費や介護サービス費の増により後期高齢者医療 事業特別会計及び介護保険事業特別会計への繰出金が増加したことによ り比率は上昇した。



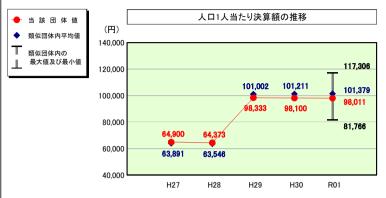
平成27年度は、保育受け入れ枠の拡大等による扶助費の増加があったが、 消費税引上げの平年度化による地方消費税交付金の増等による税収の増 により比率が低下した。平成28年度は、保育所の待機児童対策などの子育 て支援施策の強化や障害福祉サービスの利用者の増等による扶助費の増 及び経常一般財源の減により比率が上昇した。平成29年度は、県費負担 教職員の市費移管の影響により比率が上昇した。平成30年度は教職員数 の増により人件費は増となっているものの、市税収入の増等による経常一 般財源の増により比率が低下した。令和元年度は保育所受入数の増加に よる扶助費の増により比率が増加した。

神奈川県平均

類似団体内の

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



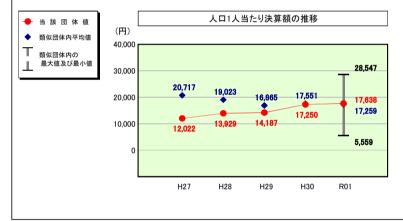
人件費及び人件費に準ずる費用				
	当該団体決算額		人口1人当たり決算客	Į.
	(千円)	当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	147, 338, 877	97, 298	103, 263	▲ 5.8
賃金(物件費)	608, 751	402	1, 458	▲ 72. 4
一部事務組合負担金(補助費等)	288	0	119	▲ 100.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	4, 485, 578	2, 962	1, 204	146. 0
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	5	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	1, 546, 083	1, 021	1, 915	▲ 46. 7
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	3, 478, 724	2, 297	1, 236	85. 8
▲退職金	▲ 9, 039, 869	▲ 5, 970	▲ 7, 821	▲ 23.7
合計	148, 418, 432	98, 011	101, 379	▲ 3.3

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数 (人)	10. 53	10. 89	▲ 0.36
ラスパイレス指数	101.0	99. 9	1. 1

(注)人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

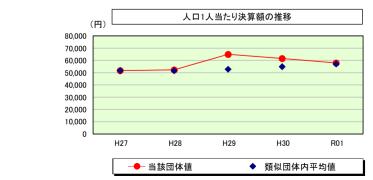


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額		人口1人当たり決算	額
	(千円)	当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額	24, 925, 850	16, 460	32, 340	▲ 49. 1
(繰上償還額等を除く)	, ,	,	,	
積立不足額を考慮して算定した額	5, 895, 694	3, 893	3, 070	26. 8
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの	43, 723, 573	28, 874	20. 684	39. 6
(年度割相当額)	40, 720, 373	20, 074	20, 004	55. 0
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に	12, 782, 688	8, 441	10. 383	▲ 18. 7
充てたと認められる繰入金	12, 702, 000	0, 111	10, 303	— 10. 7
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる	_	_	181	_
補助金又は負担金				
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	1, 839, 566	1, 215	1, 161	4. 7
一時借入金利子	_	_	0	_
(同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)			U	
▲特定財源の額	▲ 21, 043, 882	▲ 13, 897	▲ 17, 790	▲ 21.9
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として	▲ 41, 413, 847	▲ 27, 349	▲ 32, 769	▲ 16.5
普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	, ,	,	,	
合計	26, 709, 642	17, 638	17, 259	2. 2

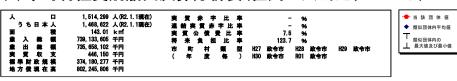
※令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析

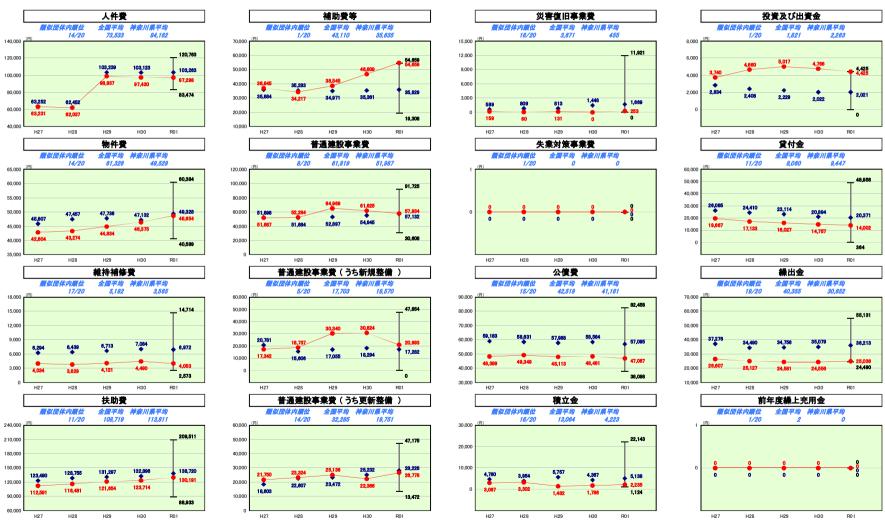


普通建設事業費

日些廷以于不良							
		当該団体決算額		J	、口1人当たり決算額	Į.	
		(千円)	当該団体(円)	増減率(%)(A)	類似団体平均(円)	増減率(%)(B)	(A) – (B)
H27		75, 451, 005	51, 687	▲ 18.9	51, 898	▲ 3.1	▲ 15.8
	うち単独分	42, 465, 572	29, 091	▲ 17. 3	25, 986	2. 9	▲ 20.2
H28		77, 075, 086	52, 284	1. 2	51, 684	▲ 0.4	1. 6
	うち単独分	40, 580, 701	27, 528	▲ 5.4	26, 671	2. 6	▲ 8.0
H29		96, 676, 430	64, 969	24. 3	52, 897	2. 3	22. 0 35. 5
	うち単独分	56, 049, 538	37, 667	36. 8	27, 013	1. 3	35. 5
H30		92, 466, 191	61, 625	▲ 5.1	54, 945	3. 9	▲ 9.0
	うち単独分	49, 446, 950	32, 955	▲ 12.5	29, 293	8. 4	▲ 20.9
R01		87, 729, 821	57, 934	▲ 6.0	57, 132	4. 0	▲ 10.0
	うち単独分	45, 726, 164	30, 196	▲ 8.4	30, 126	2. 8	▲ 11.2
過去5年間平均		85, 879, 707	57, 700	▲ 0.9	53, 711	1. 3	▲ 2.2
	うち単独分	46, 853, 785	31, 487	▲ 1.4	27, 818	3. 6	▲ 5.0



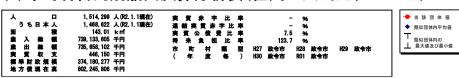
- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別慮出の分析欄

厳出決算総額は、住民一人当たり486千円となっている。主な構成項目である人件費及び扶助費、公債費について分析すると、まず人件費は、住民一人当たり98千円となっており、平成27年度は退職手当の増等により増加したが、平成28年度は退職者数の滅等の影響により滅少し、平成29年度は県費負担教職員の市費移管の影響により増加したが、平成20年度は退職者数の減等の影響により減少し、平成29年度は県費負担教職員の市費移管の影響により増加したが、平成20年度は退職者数の減等の影響により減少し、平成29年度は県費負担教職員の市費移管の影響により増加したが、平成20年度は退職者数の減等の影響により減少し、平成29年度は県費負担教職員の市費移管の影響により増加したが、平成20年度は退職者数の減等の影響により減少し、平成29年度は果費負担教職員の市費移管の影響により増加したが、平成20年度は退職者の減失し、平成29年度は退職者の減失し、平成29年度は退職者の減失し、平成20年度に対している。 成30年度に引き続き、令和元年度については、教職員数の増等が生じた一方で、人口の増の影響により減少した。

また、扶助費は、住民一人当たり、31千円となっており、保育所の待機児童対策などの予育で支援施策の強化や障害福祉サービスの利用者の増により上昇傾向にある。 さらに、公債費は、住民一人当たり、31千円となっており、平成27年度は満期一括償還積立分の増寄により出版、平成28年度も同様に満期一括償還積立分の増寄により公債費は増加しているものの、人口の運増により住民1人あたりの金額は減少、平成29年度は、公債償還元金の減等による減及び人口の運増により住民1人あたりの金額は減少した。平 成30年度は、満期一括償還積立金の増等により増加した。令和元年度は、公債償還元金の減により住民一人あたりの金額は減少した。



- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別慮出の分析機

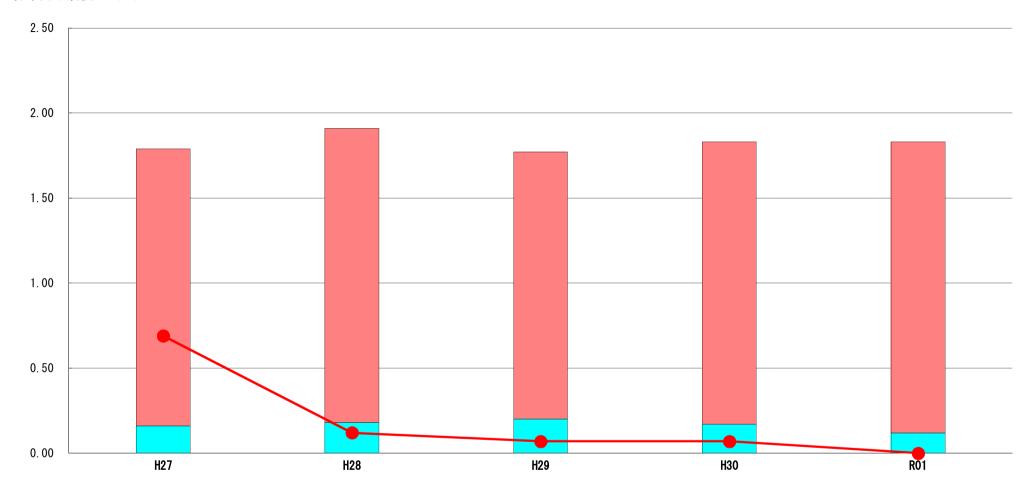
主な構成項目である民生費及び土木費、教育費について分析すると、まず民生費は、住民一人当たり177千円となっており、平成25年度以降、保育所の待機児童対策などの子育て支援施策の強化や障害福祉サービスの利用者の増により上昇傾向にある。 次に土木費は、住民一人当たり57千円となっており、平成27年度は等々力陸上競技場メインスタンで改定工事の終了及原兵急行大師終達終立体交差事業費の減率により減少、平成28年度は京兵急行大師終達終立体交差事業費や参戸土地区画整備事業費の増等により増加、平成29年度は旧中原図書館転出補債金の皆滅に伴う都市整備事業基金 指令令の諸者にとい輩がし、平成20年度は四半金線3路を権事事業をの増等により増加・た。今和7年では、百年3年では、日本6年では

(7) 実質収支比率等に係る経年分析(市町村)

令和元年度

神奈川県川崎市

標準財政規模比(%)



標準財政規模比(%)

年度	1107	1100	1100	1100	DO4
区分	H27	H28	H29	H30	R01
財政調整基金残高	1. 63	1. 73	1. 57	1. 66	1. 71
実質収支額	0. 16	0. 18	0. 20	0. 17	0. 12
実質単年度収支	0. 69	0. 12	0. 07	0. 07	▲ 0.00

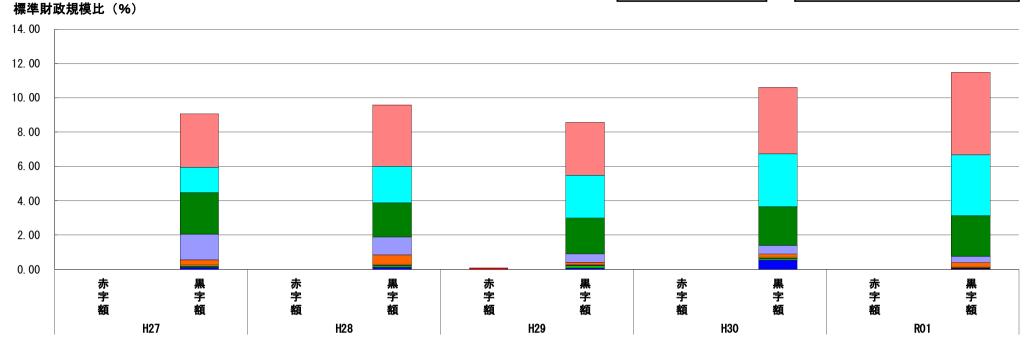
分析欄

実質単年度収支は平成25年度はマイナスであったが、平成26~30年度までは非常に小さいもののプラスにとなっている。令和元年度については、法人市民税の滅によりマイナスに転じている。財政調整基金については、補正予算の財源として活用している。平成26年度~令和元年度は市税の増収や執行段階の精査による予算執行の抑制などにより最終的には取崩しを回避したため、剰余金処分等の積立てにより残高が増加した。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析(市町村)

令和元年度

神奈川県川崎市



1 ***				
標準	时也	現模	H.	(%)

年度 会計	H27	H28	H29	H30	R01
水道事業会計	3. 13	3. 56	3. 08	3. 87	4. 80
下水道事業会計	1. 47	2. 13	2. 50	3. 07	3. 55
工業用水道事業会計	2. 42	2. 00	2. 08	2. 27	2. 37
病院事業会計	1. 49	1. 04	0. 51	0. 50	0. 35
介護保険事業特別会計	0. 31	0. 55	0. 12	0. 19	0. 28
一般会計	0. 06	0. 06	0. 05	0. 05	0. 04
公害健康被害補償事業特別会計	0. 04	0. 04	0. 04	0. 04	0. 03
墓地整備事業特別会計	0. 04	0. 07	0. 10	0. 07	0. 03
その他会計(赤字)	_	-	▲ 0.06	=	-
その他会計(黒字)	0. 11	0. 12	0. 09	0. 54	0. 02

分析欄

平成27年度については、一般会計の実質収支が増加したものの、公営企業会計(主に水道事業会計)の剰余額が減少したことにより、前年度より黒字額が減少した。また、自動車運送事業会計おいては、軽油価格の減等により黒字化した。

平成28年度については、一般会計の実質収支は横ばいであるが、公営企業会計(主に水道事業・下水道事業会計)の剰余額が増加したことにより、前年度より黒字額が増加した。

平成29年度については、一般会計の実質収支は横ばいであるが、介護保険会計・病院会計の実質収支・資金収支が減少したことにより、前年度より黒字額が減額した。

平成30年度に引き続き、令和元年度については、一般会計の実質収支は横ばいであるが、 公営企業会計(主に水道事業・下水道事業会計)の剰余額が増加したことにより、前年度より黒字額が増加した。

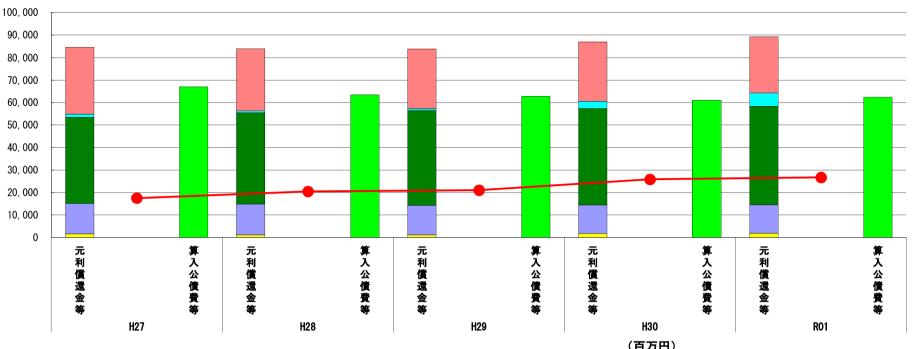
※令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率 (分子) の構造 (市町村)

令和元年度

神奈川県川崎市





						(0)11/
分子の構造	年度	H27	H28	H29	H30	R01
	元利償還金	29, 722	27, 659	26, 574	26, 386	24, 926
元利償還金等(A)	減債基金積立不足算定額※2	1, 356	785	831	3, 071	5, 896
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	38, 323	40, 690	42, 112	43, 035	43, 724
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	13, 520	13, 622	13, 192	12, 613	12, 783
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	_	-
	債務負担行為に基づく支出額	1, 670	1, 175	1, 124	1, 779	1, 840
	一時借入金の利子	-	-	-	_	-
算入公債費等(B)	算入公債費等	67, 042	63, 398	62, 722	61, 001	62, 458
(A) — (B)	━━ 実質公債費比率の分子	17, 549	20, 533	21, 111	25, 883	26, 711

分析欄

平成27年度は、準元利償還金等の増はあるものの、控除額 (特定財源及び元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需 要額算入額)の増により、実質公債費比率の分子は減少した。 平成28年度は、準元利償還金等の増に加え、控除額(特定財 源及び元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算 入額)の減により、実質公債費比率の分子は増加した。 平成29年度は、地方債の元利償還金は減したものの、控除額 (特定財源及び元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需 要額算入額)が減したことにより、実質公債費比率の分子は増 加した。

平成30年度は、準元利償還金等の増に加え、控除額(特定財 源及び元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算 入額)の減により、実質公債費比率の分子は増加した。 令和元年度は、準元利償還金等の増により、実質公債費比率 の分子が増加した。

※1 令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

((1731 17
	年度	H26末	H27末	H28末	H29末	H30末
※2 減債基金	減債基金残高 (注)	155, 248	172, 771	179, 351	190, 638	187, 306
積立状況等	減債基金積立相当額	165, 262	177, 292	187, 087	209, 024	217, 174

分析欄

減債基金の積立はルールどおり行っているが、財源対策として減債基金から 借入を行っていることにより積立不足が生じている。

「今後の財政運営の基本的な考え方」を策定、公表し、令和6年度に収支均 衡、令和7年度から減債基金借入金を返済することとしている。

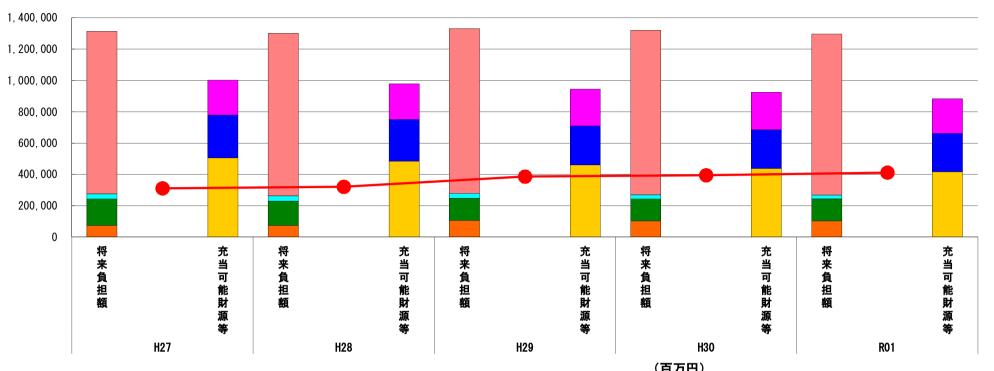
(注)減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。 減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率 (分子) の構造 (市町村)

令和元年度

神奈川県川崎市

(百万円)



							(ロハロ)
分子の構造		年度	H27	H28	H29	H30	R01
		一般会計等に係る地方債の現在高	1, 036, 189	1, 035, 000	1, 053, 471	1, 049, 364	1, 028, 266
		債務負担行為に基づく支出予定額	34, 177	34, 475	29, 343	26, 270	23, 683
		公営企業債等繰入見込額	167, 725	156, 351	142, 358	141, 684	142, 593
		組合等負担等見込額	-	_	_	_	-
将来負担額(A)		退職手当負担見込額	74, 306	73, 234	105, 548	101, 660	101, 461
		設立法人等の負債額等負担見込額	362	262	130	93	67
		うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額	-	-	_	_	-
		連結実質赤字額	-	_	_	_	-
		組合等連結実質赤字額負担見込額	-	_	_	_	-
		充当可能基金	223, 464	227, 690	234, 155	238, 846	221, 716
充当可能財源等(B)		充当可能特定歳入	272, 970	264, 585	250, 365	247, 958	244, 740
		基準財政需要額算入見込額	505, 035	485, 164	459, 442	437, 760	417, 670
(A) - (B)	-	将来負担比率の分子	311, 291	321, 884	386, 888	394, 508	411, 946

分析欄

将来負担額については、地方債現在高の減などにより減少したものの、充当可能基金の減及び「地方債現在高に係る基準財政需要額算入見込額」が減となったため、比率は増加した。

[※]令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高(東日本大震災分を含む)に係る経年分析(市町村)

(百万円)

35, 000 25, 000 15, 000 10, 000 5, 000 H29 H30 R01

				(百万円)
区分	年度	H29	H30	R01
	財政調整基金	5, 663	6, 121	6, 384
	減債基金	742	839	1, 124
	その他特定目的基金	23, 285	22, 315	23, 206
	鉄道整備事業基金	8, 926	8, 733	8, 690
	都市整備事業基金	5, 214	5, 165	5, 043
	緑化基金	2, 420	2, 258	2, 127
	資源再生化基金	1, 933	1, 038	1, 038
	市営住宅等修繕基金	1, 042	1, 015	897
	基金残高合計	29, 690	29, 275	30, 715

令和元年度

神奈川県川崎市

基金全体

(増減理由)

・財政調整基金 +263 歳計剰余金の処分、運用益金の収入等による

·減債基金 +285 減債基金運用利子分の増

・その他特定目的基金 +891

災害救助基金 +852 災害救助実施市に指定されたことによる新設による皆増。

心身障害者福祉事業基金 +210 寄付金による積立金の増による。

都市整備整備基金 ▲122 充当事業費の増及び翌年度未収繰越財源等としたことによる。

市営住宅等修繕基金 ▲118 市営住宅修繕基金の取崩し等による。

(今後の方針)

各基金の目的に沿った積立や取崩しを計画的に行っていく。

財政調整基金

(増減理由

財政調整基金については、補正予算の財源として活用している。平成26年度~令和元年度は市税の増収や執行段階の精査による予算執行の抑制などにより最終的には取崩しを回避したため、剰余金処分等の積立てや運用益金の収入により残高が増加した。

(今後の方針)

今後も補正財源として、必要額の積立や取崩しを計画的に行っていく。

減債基金

(増減理由)

減債基金運用利子分の増による

(今後の方針)

将来的な償還のため、積立や取崩しを計画的に行っていく。

その他特定目的基金

(基金の使途)

・鉄道整備基金 :鉄道及び軌道整備事業並びに新駅設置及び駅改良の資金に充当

・都市整備基金 :都市計画事業及び都市施設の整備事業の資金に充当

- 緑化基金 部市緑化推進事業の資金に充当

・資源再生化基金 :資源再生化事業の資金に充当

・市営住宅等修繕基金: 市営住宅及び特定公共賃貸住宅の修繕の資金に充当

(増減理由)

・鉄道整備基金 : 南武線駅アクセス向上等整備事業への充当による減

・都市整備基金 : 登戸地区土地区画整理事業への充当による減

・緑化基金 :保全緑地育成事業等への充当による減

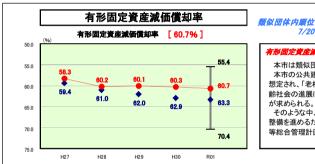
市営住宅等修繕基金: 市営住宅管理代行等委託事業への充当による減

(今後の方針)

基金の目的に沿った積立や取崩しを計画的に行っていく。



- 当該団体値 ◆ 類似団体内平均値 類似団体内の ■ 最大値及び最小値
- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 令和2年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。
- ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



有形固定資産遺価償却率の分析機

本市は類似団体の平均より下回った水準となっている。 本市の公共建築物は10年後に約7割が築30年以上になることが 想定され、「老朽化への対応」や「施設存続の可否の判断」、少子高 齢社会の進展により「住民が公共施設に求めることの変化への対応」 が求められる。

83 4

58.9

そのような中、施設の効率的かつ効果的な維持管理や最適な施設 整備を進めるため資産マネジメントの取組が不可欠であり、公共施設 等総合管理計画である「かわさき資産マネジメントカルテ」を策定し、



着似团体内槽位 13/20

全国平均

8428

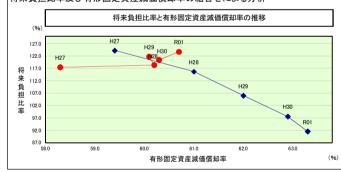
神奈川県平均 1.091.3

管務僧禮出塞の分析網

本市は類似団体の平均を上回った水準となっている。 将来負担額は地方債現在高が減により減少したものの、充当可能 一般財源についても減債基金現在高の減等により減少した。一方で、 経常一般財源等(歳入)は増加したものの、経常経費充当財源等につ

いても増加となった。そのため、債務償還比率は前年度と比較して、 類似団体の平均を上回っているものの、29.1%上昇している。今後も 庁舎建替え事業や、連続立体交差事業等により投資的経費が増加 する見込みであるが、市債発行にあたっては、実質公債費比率や市

将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

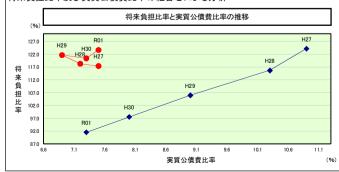


本市の固定資産台帳等を活用し、将来20年間の公共建築物の修繕費・更新費の将来見通しを試算した結果、すべての施設について計画的な長寿命化を行うことで施設の更新費を減少させ、全体事業 費の縮減・平準化を図ることが必要である。本市の将来負担比率は類似団体の平均を上回った水準となっているため、長寿命化の取組等により将来負担すべき負債を抑える取組を引き続き推進する必要

1	会去	-

		H27	H28	H29	H30	R01
当該団体値	将来負担比率	117.4	118.3	121.7	120.4	123.7
当談四体但	有形固定資産減価償却率	58.3	60.2	60.1	60.3	60.7
類似団体内平均値	将来負担比率	124.2	115.7	106.0	97.6	91.6
類似凹体內干均順	有形固定資産減価償却率	59.4	61.0	62.0	62.9	63.3

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



、 本市の実質公債費比率は、税収増により標準財政規模が増となったものの、満期一括償還分の積立金の増等により上昇している。将来負担比率については、税収増により標準財政規模が増加となり、 将来負担額の地方債現在高が減少した一方で、充当可能基金である減債基金等の残高が減となったことにより上昇している。

本市では、平成30年3月に「今後の財政運営の基本的な考え方」を改定し、その1つに「将来負担の抑制」として、市債を適切に活用しながらも、若い世代や子どもたちにとって過度な将来負担とならない ように、中長期的にプライマリーバランス(基礎的財政収支:過去の債務に関わる元利払いを除いた歳出と、市債発行などを除いた歳入との収支)の安定的な黒字の確保に努め、市債残高を適正に管理す ることを位置付けている。今後も、これらの考え方に基づき、「必要な施策・事業の着実な推進」と「持続可能な行財政基盤の構築」の両立に向けた財政運営を進める。

(参考)

		H27	H28	H29	H30	R01
当該団体値	将来負担比率	117.4	118.3	121.7	120.4	123.7
	実質公債費比率	7.5	7.2	6.9	7.3	7.5
類似団体内平均値	将来負担比率	124.2	115.7	106.0	97.6	91.6
	実質公債費比率	10.9	10.3	9.0	8.0	7.3



- ※ 市町村類型とは、人口および産業権浩等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



施設情報の分析機

有形固定資産減価償却率について、上記のうち道路、認定こども圏・幼稚園・保育所及び児童館を除く5類型で上昇傾向にあり、類似団体の平均と比べると、道路、公営住宅及び認定こども圏・幼稚園・保育所が下回っている。 本市の公共建築制い「0年後に約7割が築20年以上になることが想定され、「老朽化への対応」が求められている。また、将来的な人口減少等による税収減少の懸念等から、「施設存続の可否の判断」に係る手法の検討等も必要である。更には、市民ニーズの多様化等に伴い、公共施設 に対する「ニーズの変化への対は、14分後一般収められてくる。

これまで、「資産マネジメントの第2期取組期間の実施方針(平成26年度~令和3年度)」(公共施設等総合管理計画)に基づき、施設の長寿命化に重点を置いて取組を推進してきたが、今年度策定する「資産マネジメント第3期実施方針」の取組期間(令和4年度~令和13年度)においては、資産保有の最適化に重点を置き、これまで長寿命化の対象としていた施設に対しても、機能のあり方や施設の適正配置に関する十分な検討を行っていく必要がある。



- ※ 市町村額型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分額したものである。当該団体と同じグループに属する団体を額似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



施設情報の分析を

有形固定資産減価償却率について、上記のうち図書館及び一般廃棄物処理施設を除く6類型で上昇傾向にあり、類似団体の平均と比べると、一般廃棄物処理施設、保健福祉センター・保健所及び庁舎を除く5類型で下回っている。 本市の公共建棄物は10年後に約7割が築30年以上になることが想定され、「老朽化への対応」が求められている。また、将来的な人口減少等による税収減少の懸念等から、「施設存続の可否の判断」に係る手法の検討等も必要である。更には、市民ニーズの多様化等に伴い、公共施設 に対するビースの変化への対応1も後と一層水あられてくる。

これまで、「資産マネジメントの第2期取組期間の実施方針(平成20年度~令和3年度)」(公共施設等総合管理計画)に基づき、施設の長寿命化に重点を置いて取組を推進してきたが、今年度策定する「資産マネジメント第3期実施方針」の取組期間(令和4年度~令和13年度)においては、資産保有の最適化に重点を置き、これまで長寿命化の対象としていた施設に対しても、機能のあり方や施設の適正配置に関する十分な検討を行っていく必要がある。